

地域実践研究成果の紹介

高等学校の学校づくりにおける特別支援学校との連携 － 高等学校の校内支援体制づくりに焦点を当てて－

特徴

この研究では、静岡県全域の公立高等学校の校内支援体制づくりに焦点を当てて、静岡県全域の公立高等学校が行っている特別支援学校を含む外部機関との連携に関する現状、及び特別支援学校との連携の詳細について明らかにしました。そして、その結果から、今後、高等学校が必要に応じて特別支援学校のセンター的機能や様々な地域資源を活用し、校内の多様なニーズに対応していくための連携について検討しています。

活用していただきたい方

- ・高等学校の管理職の先生
- ・高等学校の特別支援教育コーディネーター(以下、特CO)の先生
- ・高等学校の通級による指導担当者の先生
- ・特別支援学校の管理職の先生
- ・特別支援学校の特COの先生
- ・教育委員会の指導主事の先生

研究成果の活用

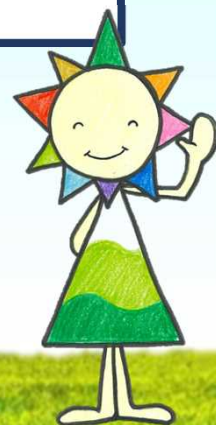
○高等学校では

- ・高等学校内の連携をさらに充実させるとともに、目的やニーズに合わせて特別支援学校を含む地域資源を有効に活用することが重要
- ・全ての高等学校において特COが指名され、その役割が他の職員にも認識されていることから、今後は特COの複数指名などによる専門性の確保や生徒や他の職員への継続した支援が重要

など

○特別支援学校による高等学校への支援

- ・高等学校は校内のニーズや目的に応じた機関と連携等を行っていることから、特別支援学校は自校のセンター的機能によって支援できることを具体的に周知することが必要
- ・高等学校や地域のニーズによりよく応えるために、異なる障害種の特別支援学校間ネットワークをさらに機能強化



研究の内容と主な成果

☆この研究では、2つの調査を行いました。

○質問紙調査

- ・ 質問紙調査を回収した全ての高等学校において、特COが指名されており、約90%が「一人」と回答していました。特COの経験年数は、1年目と2年目を合わせると半数を超えていました。
- ・ 特別支援学校を含む外部機関との連携や専門家の活用では、84課程中46課程(54.8%)がスクールカウンセラーであり、特別支援学校との連携は38課程(45.2%でした)。
- ・ 特別支援学校との連携内容は、高等学校の体制整備に関することが多く、スクールカウンセラーの活用では、生徒や保護者の相談などの心理面が多く見られました。
- ・ 特別支援学校との今後の連携では、「特別な支援が必要な生徒の指導・支援について相談したい」が最も多く、次いで「個別的教育支援計画や個別の指導計画作成のノウハウが知りたい」が多く見られました。

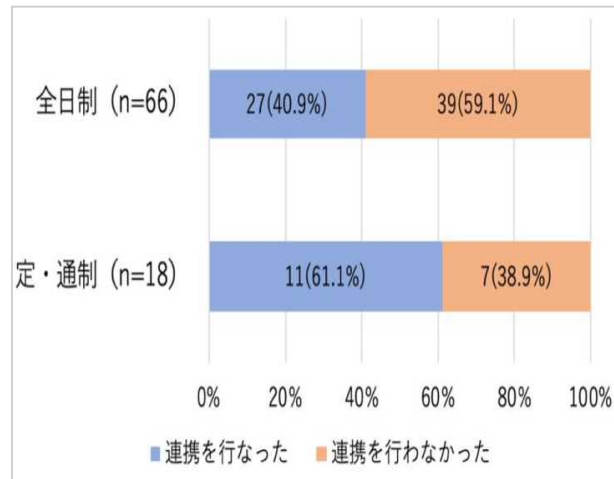


図1 特別支援学校との連携状況

○聞き取り調査

聞き取り調査を行った高等学校から、特別支援学校との連携には2つの特徴があることがわかりました。

- ・ 高等学校で実施されたケース会議に特別支援学校職員の参加を要請し、高等学校の生徒の指導や支援に助言を受けているもの
 - ・ ケース会議への参加をきっかけに特別支援学校職員が高等学校の授業を参観
 - ・ 特別支援学校職員による授業参観後に担任と面談を行い、支援へのアドバイスを受ける取組
 - ・ 特別支援学校職員を講師として招き、校内研修会を実施 など
- ・ 高等学校が特別支援学校から他の機関との繋がり方の助言を受けているもの
 - ・ 障害に関する手帳を取得予定の生徒の就職に関して、進路決定までのスケジュール等について助言を受けて対応につなげていくもの
 - ・ 医療機関から退院した生徒への対応について、特別支援学校から連携に必要な機関の助言を受けて他機関とも連携を行っているもの など

インクルーシブ教育システム構築との関連性

1. 体制整備 : (1-1)園内・校内の支援に係る体制整備

4. 指導体制 : (1-1)指導体制の整備・充実

*インクルーシブ教育システム構築の観点は、国立特別支援教育総合研究所横断的研究「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」で検討したインクルCOMPASSの観点を規準にしています。

詳しい内容
は報告書
をご覧下さい

地域実践研究 多様な教育的ニーズに対応できる学校づくりに関する研究 報告書
高等学校の学校づくりにおける特別支援学校との連携－高等学校の校内支援体制づくり焦点を当てて－(静岡県)
P143-221

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/specialized_research/b-338